

2025年日本国際博覧会に係る
環境影響についての検討結果報告書

令和3年12月

大阪市環境影響評価専門委員会

はじめに

この報告書は、大阪市環境影響評価条例に基づき、令和3年10月21日に大阪市長から諮問を受けた「2025年日本国際博覧会環境影響評価準備書」について、専門的・技術的な立場から検討した結果をまとめたものである。

なお、同準備書については、令和3年10月1日から同年11月1日まで縦覧に供され、併せて同年11月15日まで意見書の受付が行われ、環境の保全及び創造の見地からの意見書が118通提出された。

また、令和3年12月11日に公聴会が開催され、6名の公述人から意見の陳述があった。

本委員会では、意見書の内容及び公聴会における意見陳述の内容を含め、審議検討を行ったことを申し添える。

令和3年12月28日
大阪市環境影響評価専門委員会
会長 近藤 明

目次

はじめに

I 事業の概要	1
II 検討内容	
1 全般事項	6
2 大気質	20
3 水質	39
4 土壌	43
5 騒音	46
6 振動	65
7 低周波音	73
8 廃棄物・残土	79
9 地球環境	88
10 動物	94
11 植物	104
12 生態系	111
13 景観	135
14 自然とのふれあい活動の場	139
III 準備書に対して提出された意見の概要	147
IV 指摘事項	167
おわりに	170

[参考]

- 諮問文・答申文
- 大阪市環境影響評価専門委員会委員名簿
- 大阪市環境影響評価専門委員会部会構成
- 大阪市環境影響評価専門委員会開催状況

I 事業の概要

1 事業の名称

2025 年日本国際博覧会

2 事業の種類

都市計画法第 4 条第 12 項に規定する開発行為を伴う事業

(施行区域の面積が 50 ヘクタール以上であるものに該当)

自動車ターミナル法第 2 条第 4 項に規定する自動車ターミナルの新設の事業

(同時に駐車することのできる自動車の台数が 1,000 台以上である駐車場等を設けるものに該当)

3 事業の規模

会場予定地：約 159 ヘクタール

(仮称) 舞洲駐車場予定地：約 9,000 台

4 事業者の名称

公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会 (代表者：会長 十倉 雅和)

5 事業計画の概要

(1) 事業の目的

本博覧会は、『いのち輝く未来社会のデザイン』をテーマとしており、格差や対立の拡大といった新たな社会課題や、AI やバイオテクノロジー等の科学技術の発展、その結果としての長寿命化といった変化に直面する中で、参加者一人一人に対し、自らにとって「幸福な生き方とは何か」を正面から問いつつ、世界の叡智とベストプラクティスを大阪・関西地域に集約し、多様な価値観を踏まえた上での諸課題の解決策を提示していくとしている。

(2) 誘致・開催決定の経緯

大阪府は、2025 年登録博覧会の大阪誘致に向けた検討を行う、行政、経済界、有識者から成る「国際博覧会大阪誘致構想検討会」(2015 年)、「2025 年万博基本構想検討会議」(2016 年 6 月)の議論を経て、「2025 日本万国博覧会基本構想案」(2016 年 11 月)を取りまとめ、国へ提出した。大阪府からの提案を受けて、経済産業省は、万博立候補に向けた国としての検討を行うために、「2025 年国際博覧会検討会」を設置 (2016 年 12 月)し、パブリックコメントを経たうえで報告書を作成 (2017 年 4 月)した。国は、本報告を踏まえ立候補及び開催申請の閣議了解を経て、2017 年 9 月に博覧会国際事務局 (BIE) へ立候補申請文書を提出した。その後、2018 年 11 月の第 164 回 BIE 総会での開催国決定の投票により、2025 年国際博覧会の開催国が日本に決定した。また、2020 年 12 月 1 日には、第 167 回 BIE 総会が開催され、登録申請が承認されたとしている。

(3) 開催場所の選定の経緯

開催場所の選定は、2025 日本万国博覧会基本構想案の策定にあたり大阪府が設置した「2025 年万博基本構想検討会議」において、「会場用地 100ha 以上」と「交通基盤」を条件に、7ヶ所（「彩都東部・万博記念公園」、「服部緑地」、「花博記念公園鶴見緑地」、「舞洲」、「夢洲」、「大泉緑地」、「りんくうタウン」）が検討された。

その結果、100ha 以上の会場用地や、会場への交通アクセスも確保でき、埋立地を活用することによる自然への負荷が少ないことに加え、既存の大都市機能を活用できることから夢洲が選定されたとしている。

6 事業の内容

(1) 事業の位置

会場予定地は此花区夢洲、（仮称）舞洲駐車場予定地は此花区舞洲に位置し、図 1 のとおりとしている。

(2) 事業の概要

- ・開催期間（予定）：2025 年 4 月 13 日から 2025 年 10 月 13 日まで
- ・想定入場者数：約 2,820 万人（計画日来場者 28.5 万人/日）
- ・開催時間（予定）：午前 9 時から午後 10 時まで

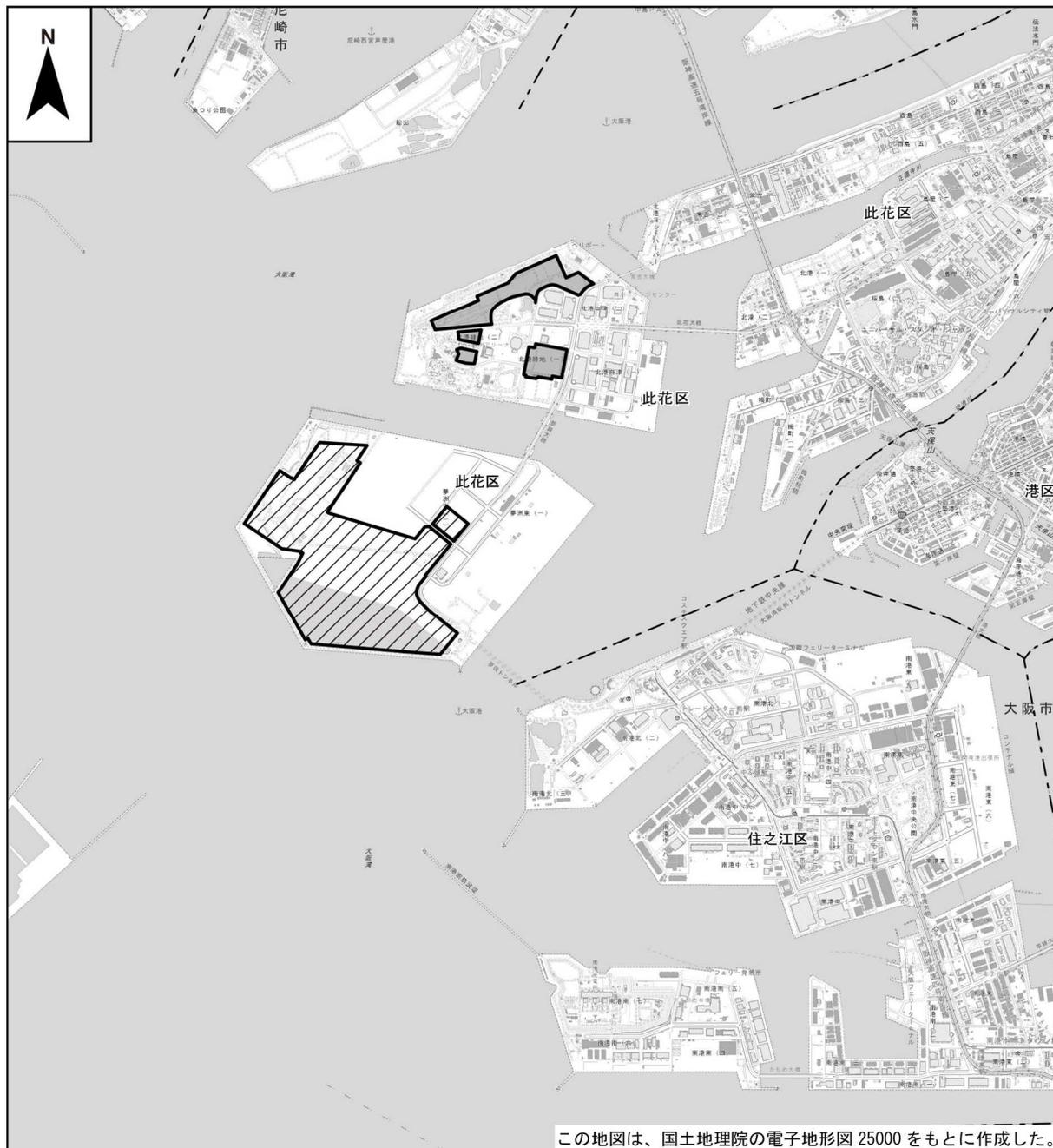
(3) 会場計画

① 会場デザインコンセプト

会場は、四方を海に囲まれたロケーションを活かし、世界とつながる「海」と「空」が印象強く感じられるデザインとするとしている。円環状の主動線を設け、主動線につながるように離散的にパビリオンや広場を配置することで、誘致の時から「非中心・離散」の理念を踏襲しつつ「つながり」を重ね合わせた「多様でありながら、ひとつ」を象徴する会場を創出し、無数の異なるものたちが一つの世界を共有しているという感覚を来場者が体感することが出来るような場をめざすとしている。

② 会場エリア

会場内は大きく 3つのエリア（パビリオンワールド、グリーンワールド、ウォーターワールド）に区分するとしている。パビリオンワールドは、会場の中央部に位置し、パビリオン等の施設が集まるにぎわいのエリアであり、東と西の 2か所にエントランスゲートを設置するとしている。主要施設としては参加国・企業・国際機関のパビリオン、日本館、自治体館、テーマ館、飲食・物販施設、管理施設、各種供給施設があるとしている。グリーンワールドは、屋外イベント広場やベストプラクティスエリア、先進的なモビリティを体験するエリア等が配置されるとしている。ウォーターワールドは、海の上の万博会場を象徴する場所であり、堤防によって作られた内海をさらに展望歩廊でもある大屋根（リング）によって囲い取ることで「海の広場」を作り出すとしている。この三日月状の水辺空間は、水上イベントを始めとした親水空間での様々な活動に供されるとしている。



- 凡例
-  会場予定地
 -  (仮称) 舞洲駐車場予定地
 -  市区界

0 0.5 1 2 km

図 1 事業計画地の位置図

③ 会場内輸送

会場内での来場者の移動は、徒歩を主な手段として想定しているが、高齢者、障がい者、子連れの家族等、様々な来場者が快適に会場内を移動できるように、先進的なモビリティを体験する機会を得られるよう、多様なモビリティ（外周トラム・小型モビリティ・空飛ぶクルマ）を導入する計画であるとしている。また、これらに来場者が便利に利用できるよう、統合的な情報サービスを提供し、物資及び廃棄物の運搬等についても、先端技術を活用しつつ効率的な輸送を実現するとしている。

(4) (仮称) 舞洲駐車場計画・輸送計画

(仮称) 舞洲駐車場予定地は、来場者のパークアンドライドシステムを構成する万博の会場外駐車場として来場者の自家用車の駐車スペース、会場予定地との間を結ぶパークアンドライドバスの乗降場所、トイレ他サービス施設等を設置する計画であるとしている。

大阪・関西万博の想定来場者数 2,820 万人の円滑な来場を実現するために、鉄道・道路・海路・空路等の既存交通インフラを最大限活用したアクセスルートを計画するとしている。

鉄道については、大阪メトロ中央線のコスモスクエア駅から会場となる夢洲に鉄道（北港テクノポート線）が延伸され、(仮称) 夢洲駅が建設される予定であり、これらが主な公共交通ルートとなるとしている。

自動車については、一般の自家用車は、(仮称) 舞洲駐車場予定地でバスに乗り換えるパークアンドライド方式を採用し、夢洲への乗り入れは、原則として禁止とするとしている。自家用車の走行経路は、阪神高速道路の湾岸舞洲出入口・淀川左岸舞洲出入口まで走行し、此花大橋を経由して(仮称) 舞洲駐車場予定地に至る経路を基本とするとしている。また、団体バス、障がい者用車両、タクシー、貨物輸送車両、管理用車両は、夢舞大橋または夢咲トンネル経由で夢洲の会場予定地に至る経路を基本とするとしている。

シャトルバス（主要駅・空港）については、鉄道主要駅及び空港から万博会場まで直通で運行するとしている。シャトルバスの走行経路は、阪神高速道路の湾岸舞洲出入口・淀川左岸舞洲出入口まで走行し、此花大橋、夢舞大橋を経由して会場西ゲートに隣接する交通ターミナルに設けるシャトルバス乗降場に至る経路を基本とするとしている。

海路・空路については、会場が島というロケーションを活かして、民間企業等による船によるアクセスの導入も検討されており、旅客の乗降場は夢洲の北側エリアが想定されているとしている。

(5) 工事計画

会場予定地の工事工程は表 1、(仮称) 舞洲駐車場予定地の工事工程は表 2 に示すとおりである。

表 1 会場予定地の工事工程

工事内容	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
造成・インフラ工事	■				
パビリオン等建築工事		■			
開催・供用期間				■	
撤去工事					■

表 2 (仮称) 舞洲駐車場予定地の工事工程

工事内容	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
敷均し・敷地造成工事			■		
建築・設備設置工事			■		
開催・供用期間				■	
撤去工事					■

(6) SDGs 達成への貢献

大阪・関西万博開催の意義の 1 つとして、「SDGs 達成・SDGs+beyond への飛躍の機会」を掲げている。大阪・関西万博が開催される 2025 年は、SDGs の目標年である 2030 年の 5 年前であり、SDGs 達成に向けたこれまでの進捗状況を確認し、その達成に向けた取組を加速させる絶好の機会となるとしている。同時に、中長期的な視野を持って未来社会を考えることを通じて、2030 年の SDGs 達成にとどまらず、その先 (+beyond) に向けた姿が示されることも期待されるとしている。

大阪・関西万博のコンセプトは「People's Living Lab (未来社会の実験場)」であるとしている。万博会場を新たな技術やシステムを実証する場と位置づけ、多様なプレイヤーによるイノベーションを誘発し、それらを社会実装していくための巨大な装置としていくとしている。

大阪・関西万博は、3 つのサブテーマを通じて、テーマの実現をめざすとしている。世界各国の公式参加者（参加国や国際機関）が、それぞれの立場から SDGs 達成に向けた優れた取組を持ち寄り、会場全体で SDGs が達成された未来社会の姿を描くとした「世界との共創」、「いのち輝く未来社会」を大阪・関西万博の会場に描き出すことでテーマの実現をめざすとした「テーマ実践」及び「未来社会ショーケース」を万博会場内外、また会期前から実践していくことで、大阪・関西万博がてことなり、その理念・成果をレガシーとして後世に継承していくことも本万博の開催意義の一つであるとしている。